

Ⅰ 結果のポイント

I 結果のポイント（～P4）

1 全道の概要（P6～41）

(1) 実技に関する調査

【P6～11】

① 体力合計点

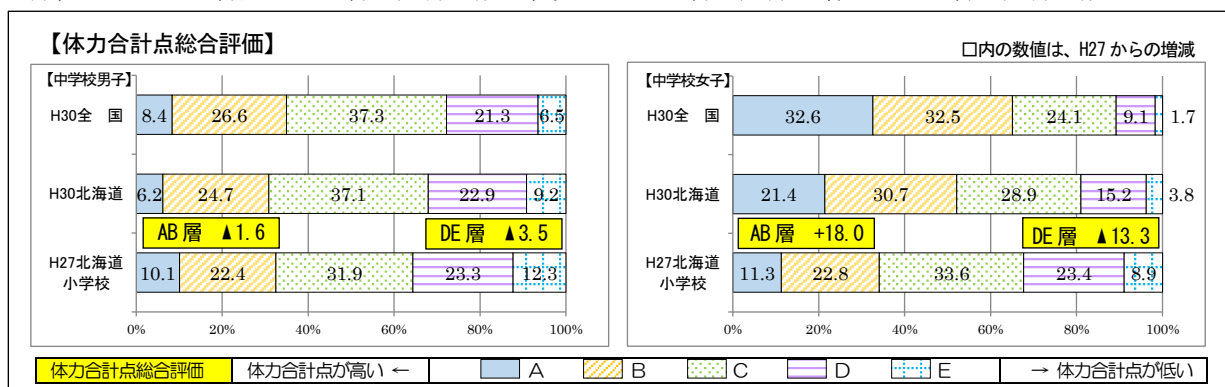
- ・小・中学校の男女いずれも全国平均を下回っている。
- ・昨年度と比較して、小学校男子は僅かに下がったものの、小学校女子及び中学校男女は上昇している。
- ・小学校女子、中学校男子は全国との差を縮めている。

② 各種目

- ・全国平均を上回った種目は、小学校男女の「握力」、「ソフトボール投げ」、中学校男子の「握力」である。
- ・小学校8種目中、男子は2種目、女子は5種目で、中学校9種目中、男子は3種目、女子は6種目で全国との差を縮めている。
- ・小学校女子の「握力」は、全国との差を広げている。

③ 体力合計点総合評価の児童生徒の割合

- ・体力合計点総合評価のDE層の割合は、小・中学校の男女いずれも全国平均より高い。
- ・昨年度と比較してDE層の割合は、小学校女子、中学校男女で減少している。
- ・平成27年度の小学校と平成30年度の中学校を比較（平成27年度の小学校第5学年が平成30年度の中学校第2学年）した場合、男子はAB層及びDE層の割合が減少、女子はAB層の割合が増加しDE層の割合が減少している。



(2) 体格と肥満度に関する調査

【P12～13】

- ・肥満傾向児の出現率は、小・中学校の男女いずれも全国平均より高い。
- ・痩身傾向時の出現率は、小・中学校の女子で全国平均より高い。

(3) 児童生徒質問紙調査

【P14～25】

- ・「運動やスポーツをすることが好き」、「運動やスポーツは大切」と回答した割合は、小・中学校の男女いずれも全国平均より高い。
- ・「体育（保健体育）の授業以外における1週間の総運動時間が60分未満」と回答した割合は、小学校では男女いずれも全国平均より低く、中学校では男女いずれも全国平均より高い。
- ・「体育（保健体育）の授業は楽しい」と回答した割合は、小・中学校の男女いずれも全国平均より高いが、「授業の始めに授業の目標（目当て・ねらい）が示されている」、「授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合は、小・中学校の男女いずれも全国平均より低い。

(4) 学校質問紙調査

【P26～29】

- ・「児童（生徒）の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を設定している」、「児童（生徒）の体力・運動能力の向上に関する取組、体育授業における指導方法の工夫・改善について、全教職員で進めている」と回答した学校の割合は、小・中学校いずれも全国平均より高い。
- ・「新体力テストを調査対象の学年以外でも実施している学校」の割合は、小・中学校いずれも全国平均より低い。

(5) 継続的に成果を上げている県の取組等の比較

【P30~32】

本道と継続的に成果を上げている県（福井県、茨城県）の児童生徒質問紙調査の結果を比較した場合、「体力テストの結果や体力・運動の向上について、自分なりの目標を立てている」と回答した児童生徒の割合が両県ともに本道より高い。

(6) 調査結果の分析

【P33~38】

- ・ 体育授業での目標や振り返りを意識している小学生は、主体的に活動する傾向にあり、体力合計点も高い。
- ・ 体力・運動能力に自信がある中学生は、運動や健康、保健体育の授業に対する意識が高い傾向にある。
- ・ 体力・運動能力の向上について目標を立てている児童生徒は、体力合計点が高く、1週間の総運動時間が60分未満の割合や肥満傾向児の出現率が低い傾向にある。

(7) 札幌市を除く北海道の調査結果

【P39~41】

全国平均を上回った種目は、小学校男女の「握力」、「ソフトボール投げ」、小学校男子の「反復横とび」、中学校男子の「握力」である。

2 管内の概要 (P44~101)

(1) 実技に関する調査

- ・ 体力合計点が全国平均を上回った管内は、次のとおりである。
 [小学校男子] 後志、胆振、檜山、釧路の4管内
 [小学校女子] 胆振、檜山、留萌、釧路、根室の5管内
 [中学校男子・女子] 檜山の1管内
- ・ 体力合計点が最も高かった管内は、小・中学校の男女いずれも檜山である。



(2) 児童生徒質問紙調査

- ・運動やスポーツをすることが好きと回答した児童生徒の割合が最も高かった管内は、小学校は男子が後志、女子が檜山で、中学校は男女いずれも十勝である。
- ・体育（保健体育）の授業以外における1週間の総運動時間が60分以上と回答した児童生徒の割合が最も高かった管内は、小学校は男女いずれも檜山で、中学校は男子が宗谷、女子が留萌である。
- ・体育（保健体育）の授業は楽しいと回答した児童生徒の割合が最も高かった管内は、小学校は男子が後志、女子が檜山で、中学校は男子が檜山、女子が十勝である。

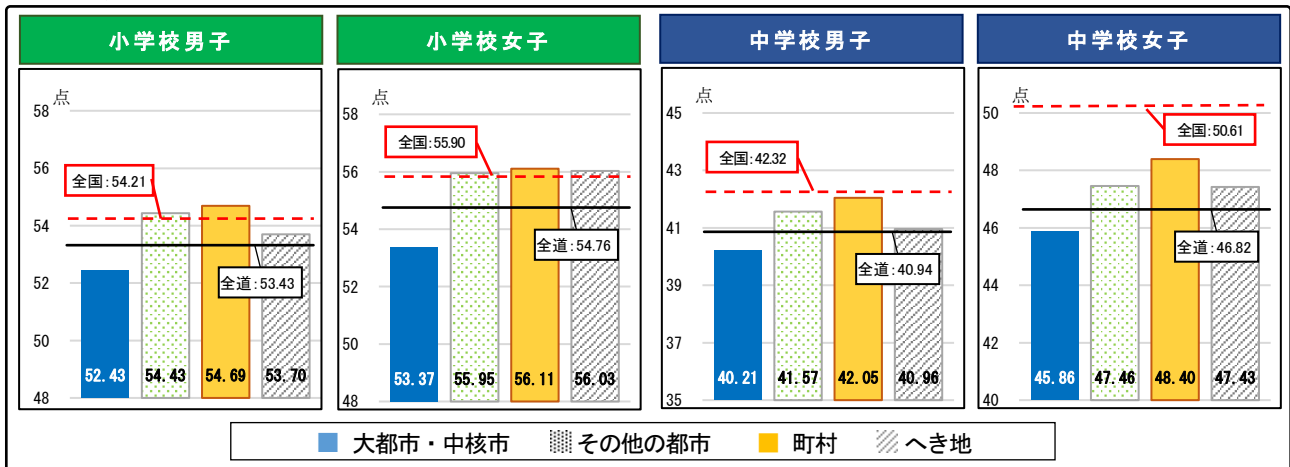
(3) 学校質問紙調査

- ・児童生徒の体力・運動能力の向上のための学校全体の目標を全ての学校で設定している管内は、小学校が檜山、留萌、宗谷、オホーツク、根室で、中学校が日高、根室である。
- ・体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を全ての小学校で行った管内は、檜山、留萌、宗谷である。
- ・第4学年において新体力テストを全ての小学校で実施している管内は、檜山、留萌、釧路、根室である。
- ・第1学年において新体力テストを全ての中学校で実施している管内は、留萌である。

3 市町村の概要 (P104~461)

(1) 都市階級区分ごとの体力の状況

- ・体力合計点が最も高いのは、小・中学校の男女いずれも町村で、最も低いのは、小・中学校の男女いずれも大都市・中核市である。



(2) 体力合計点（T得点）が全国を上回った市町村数の割合

- ・体力合計点（T得点）が全国を上回った市町村の割合は、小・中学校の男女いずれも減少している。

